

じ候、讀者諸君のうち御賛成の方は本會へ御申込下され度候

近 事

△日本水彩畫會研究所に於ては、舊臘二十日月次會兼忘年會の催ありしが、本月第四日曜日には月次會の後盛んなる新年會を開き、種々の餘興を催す計畫にて目下準備中なりと

△麻布飯倉四丁目大日本繪畫講習會にては兼て便利部を設け彩料品の發賣をなせしが、今回ニューン會社より直接輸入を企て益々擴張して廣く需要に應ずる計畫なりといふ

編者より

◎函館間瀬生へ 君の繪葉書交換は君の宿所がないから出して無益と思つて見合せました

問に答ふ

■一 印刷物に描ける樹幹道路建築物等を見るに頗る美麗なり、然るに僕が實景に臨

んで見ると非常に汚れたる觀あり、その儘に描かんか殆と見るに耐へず觀察の足らざる爲めにや又は斯くの如き時は色彩應用論などの描法を用ひてよきや自然を離れるといふやうなことなきや二 遠山等の肉眼的に見ゆる皺襞は主觀たらざる場合省略塗抹して差支なきや三 會友氏名は『みづゑ』第十五以來掲載あるものゝみにや(織田將一) ◎一 昔は繪を殊更に美しく畫いたものであるが近來はかゝる傾向殆どなし、印刷物は原色版でも小なるものは色が單純に現はれるため美しと見れば見られもすべし、極端なる寫實家は時に醜の方面のみを描いて是も自然現象なりといへど畫家は好んで醜き色を見るにも及ばざるべく、自然に美しい方に傾くならん、何でも自己の信じた通り色を出せばそれにてよろしからん二 小なる繪には細かき皺迄描くに及ばず大體の感じだけにてよけれど要するに程度如何にあること故満足な答へを誌上に示し難し三 然り、折を見て全會友の現住所姓名を掲出すべし 水彩畫階梯の口繪は何人の筆にや(間瀬生) ◎第一版は大下藤次郎氏第二

□昨年計畫せし特別讀者募集は、二十餘家の賛成ありて、製版印刷費等の値上げに揭はらず、本誌をして幾分面目を改め候結果僅少なれ共讀者の數は約一割を増加致候

□本誌は其収入の全部を、一切編輯費に使用致候事故、収入の増加はやがて内容の善美を來すべく候間、希くは此際特別及普通讀者の勧誘等奮て御盡力下されたく候

□本號口繪『燧岳』は、昨秋文部省展覽會へ出品せられし『深山の夏』の原畫にして、ワットマン九ツ切大に御座候

□小島氏の『ラスキンの山岳論』は四五回にて終了可致候、次號にはいよいよ其傑作『近世畫家論』に就ての説明出づべく候

□『イースト氏寫生談』及び『色彩應用論』は猶一回を剩し居候、これまた次號に出すべく候

□別項廣告欄に有之候通り本會の丸山晚霞氏のため長野縣有志の催にかゝる畫會有之候同氏の日本畫はその専門たる水彩畫の技倆に對して決して遜色あるものに無之と信